

私たちの街の家計簿チェック

●……平成10年度財政報告……●

平成十年度の決算のあらましと九月三十日現在の平成十一年度一般会計予算の上半期執行状況をお知らせします。
 富士市の財政事情と私たちの税金が未来の住みよいまちづくりのためにどのように使われているのかを確かめてください。

一般会計

歳入 (会計年度内に入ってきたお金)

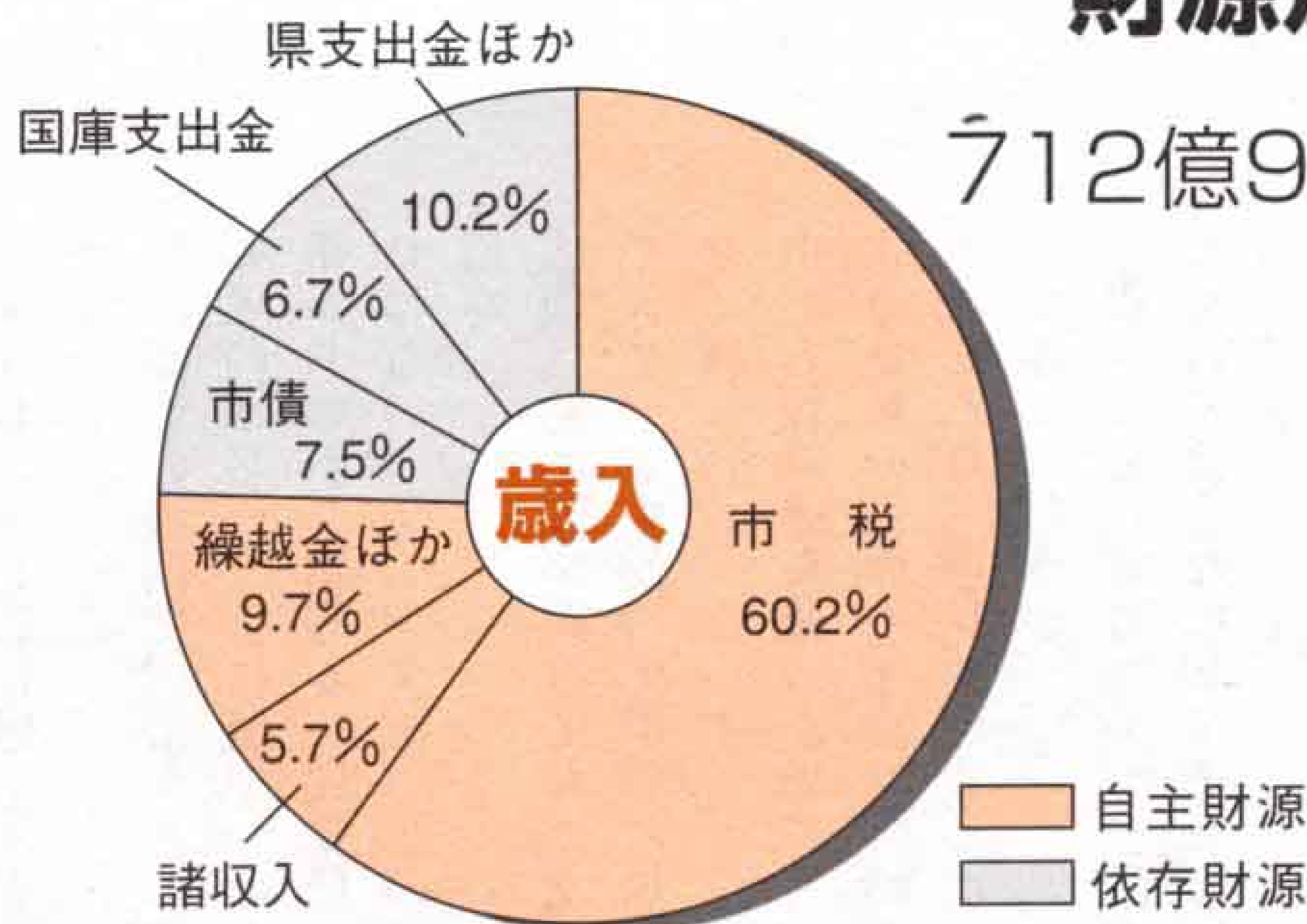
科目別	収入済額
総額	712億9,574万円
市税 (市民税・固定資産税など)	429億1,466万円
市債 (市の借入金)	53億5,680万円
国庫支出金 (国からの補助金など)	47億6,882万円
諸収入 (貸付金元利収入など)	40億5,314万円
繰越金 (前年度からの繰越金)	29億5,740万円
県支出金 (県からの補助金など)	27億8,657万円
地方消費税交付金 (県から交付される消費税)	25億5,290万円
分担金及び負担金 (施設入所者の負担金など)	19億1,166万円
使用料及び手数料 (市営住宅使用料など)	15億3,189万円
地方譲与税 (国から地方に譲与されるお金)	6億9,153万円
自動車取得税交付金 (県から交付される目的税)	5億9,164万円
その他	11億7,873万円

市民1人当たりの
市税負担額
18万3,243円

※人口23万4,195人で算出
(平成11年3月31日現在)

財源別歳入

712億9,574万円



自主財源

市がみずから収納したり徴収したりできる財源のこと。市民税、固定資産税、使用料や手数料など。

依存財源

自主財源に対して、国や県からの収入のこと。市債、国庫支出金、県支出金、地方譲与税、自動車取得税交付金など。

市債

市が大きな建設事業などを行うため、国や銀行などから長期にわたってお金を借りること。

国・県支出金

特定の目的の財源として国や県から交付されるお金のこと。

地方消費税交付金

地方消費税（消費税5%のうち1%）として、県からその2分の1を交付されるお金のこと。

決算のあらまし

平成10年度は、長引く不況のため厳しい財政状況でしたが、行政改革の推進による事務事業の見直し、人件費の抑制などを行い、歳出の節減合理化に努めました。

また、10年度は「ふじ二十一世紀プラン」後期基本計画の第三次年度として、「未来への道を拓く年」と位置づけ、二十一世紀に向けた施策の推進に重点を置きました。主な事業としては、天間幼稚園・今泉公民館の建設、介護保険制度導入の準備や、(仮称)入山瀬緑地建設事業、(仮称)森林墓園建設事業、新消防防災庁舎の建設などの事業に取り組みました。

歳入では、長引く景気低迷、特別減税などにより、歳入の約六割を占める市税は前年度と比べ十三億円の減となりました。しかし、地方消費税交付金の増などにより、全体では約二十三億円の増となりました。また、歳入の総額に占める自主財源の比率を見ると七五・六%で、前年度の七九・二%を三・六%下回っています。

歳出では、土木費がトップとなり全体の二〇・一%を占めています。また、増大する福祉ニーズに対応するため、民生費が土木費に次ぎ二番目の支出となりました。



▲平成11年4月に落成した
天間幼稚園園舎

平成10年度

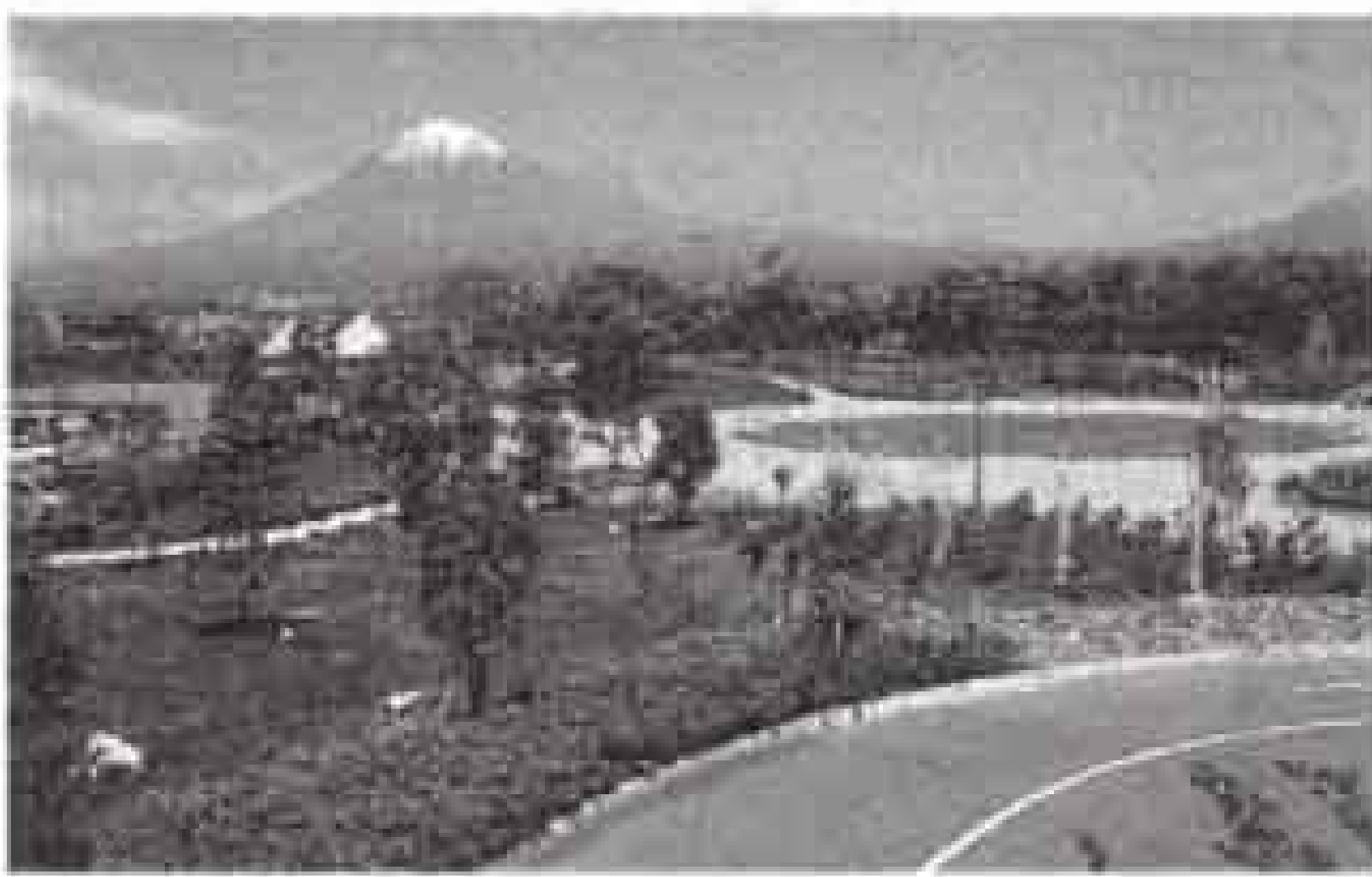
歳出

(会計年度内に使ったお金)

科目別	支出済額
総額	679億9,459万円
土木費 (道路や公園などの整備に)	136億8,267万円
民生費 (社会福祉などに)	113億6,794万円
公債費 (借りたお金を返すために)	97億5,027万円
教育費 (学校整備や社会教育に)	92億1,966万円
衛生費 (ごみ処理や病気の予防に)	71億1,095万円
総務費 (庁舎管理や文化会館管理などに)	67億8,389万円
消防費 (消防・水防・防災のために)	36億2,670万円
農林水産業費 (農林業や水産業のために)	20億2,442万円
労働費 (働く人のために)	19億7,270万円
商工費 (商業や工業の発展のために)	17億740万円
議会費 (議会の運営のために)	5億5,843万円
その他	1億8,956万円

市民1人当たり
に使ったお金
29万 333円

★道路や河川、公園の整備に
5万8,424円



★社会福祉などに
4万8,540円

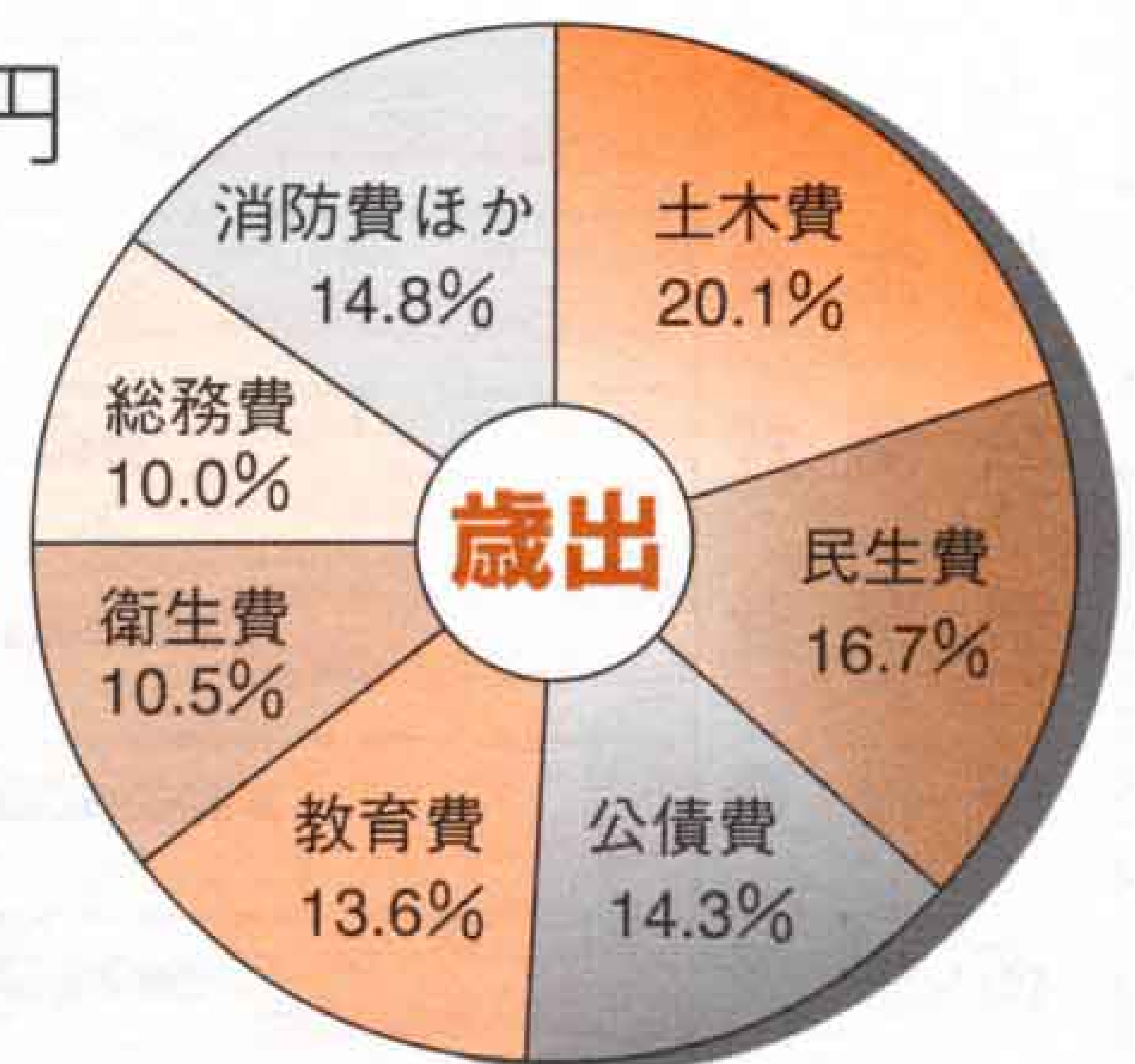


★借りたお金を返すために
4万1,633円

★学校教育や社会教育に
3万9,367円

目的別歳出

679億9,459万円



企業会計決算

■病院事業

事業収益合計 114億5,067万円
 事業費用合計 117億7,017万円
 純損失 3億1,950万円

■水道事業

事業収益合計 29億7,477万円
 事業費用合計 24億8,738万円
 純利益 4億8,739万円

静岡県六市競輪組合会計決算

歳入 150億9,949万円
 歳出 150億5,339万円
 純利益 4,610万円

富士市を含む県内の六市で構成された競輪組合は、平成10年度で解散しました。

特別会計決算

歳入 366億4,764万円
 歳出 353億8,728万円

特別会計区分	歳入	歳出
老人保健医療事業	126億6,709万円	126億6,582万円
国民健康保険事業	126億1,107万円	118億2,843万円
下水道事業	88億4,400万円	88億3,380万円
墓園事業	5億7,250万円	5億6,038万円
富士中部土地区画整理事業	5億3,935万円	5億 368万円
公共用地先行取得事業	4億7,442万円	4億7,442万円
地方卸売市場事業	1億9,419万円	1億9,084万円
富士駅周辺土地区画整理事業清算金	1億6,022万円	1億3,559万円
駐車場事業	8,285万円	8,192万円

富士市には18の特別会計があります。ただし、表中では財産管理特別会計（内山、旧吉原、旧島田、旧今泉、旧今泉・一色・神戸・今宮、旧元吉原、旧須津、旧吉永、旧原田）を省略しています。

平成11年度一般会計は追加補正して675億3,000万円

平成11年度一般会計の金額上位7科目予算と執行状況

上段：予算額 (執行率：%)
 下段：執行額

